



伸びしろ

記憶に残るドラマのシーンが2つあります。

① 子どもがお父さんに漢字の書き取りテストを見せるシーン

子「漢字のテスト、17点やった！」(自慢げに)

父「すごいじゃないか、前より10点上がったな！」

そのやりとりを聞いたお母さんが渋い顔で二人を見ていて、父子は、
ばつの悪そうな表情になる

② 子どもがお母さんに算数のテストを見せるシーン

子「今度の算数のテスト80点だった」

母「すごいわね、でもあと20点頑張れるわね」

実は、30点のテストを80点に改ざんして見せていたことが後で発
覚して騒動になる

2つは別々のドラマですが、私の記憶に残っている理由は…

① 17点の結果は決して褒められることではないものの、前回より10
点アップしたその伸びしろをきちんと評価していること

② 30点のテストを80点に見せかけないといけない背景には、常に好
成績を求められていた子どもの状況があり、「もっと、もっと…」と追
い込まれていってしまっていたこと

ドラマの世界ながら、もしかすると現実世界にも同様のことがあるのでは
と思います。結果のみに目を奪われ、その伸びの部分がないがしろにしない
ように、それでいて、必要な目標を達成できるように子どもたちを育ててい
くことの大切さをこの2つのシーンが物語っているように思えます。

明後日は卒業式、来週は修了式です。小学校生活の伸びと中学校に向けて
の必要なこと、現学年での伸びと次の学年に向けて必要なことを「あゆみ」
等を通してお子様と話していただければと思います。